

センターだより

第39号

平成27年12月22日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター

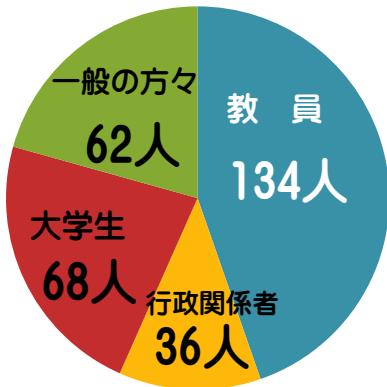
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

あおもり教育フェスタ2015



2日間でのべ**300人**の方々にご来場いただきました。
本当にありがとうございました

アンケート結果～たくさんのご感想をいただきました～



来場された方々の内訳

授業力向上セミナー



村川雅弘教授の講演

村川先生のお話、大変勉強になりました。明日からの授業と校内研をよりアクティブに変えていこうと思いました。特に校内研については改めて考えさせられ、目から鱗が落ちる思いでした。

プロジェクト研究発表

国や各教育関係誌等でいろいろと論じられているキーワードについて、授業をつくる際に、実際どのようにつながるのかを資料や展示物、模擬授業や体験によってわかりやすく解説していただき、大変有意義でした。

短い時間でも集中でき、また小学生でも楽しめそうな内容でした。



研究員研究発表

少し手を加えれば、確実に子どもが伸びていく実践研究ばかりで大変参考になりました。できるところから、できる範囲で自分も取り組んでみたいと思います。どの発表もとてもわかりやすく、自分でもやってみたいと思えるような内容でした。

教育研究団体発表

短い時間で集中しやすく小学生が好きそうな授業で楽しく受けることができました。テンポ良く進んでいて話もわかりやすく良かったです。内容がとてもおもしろくて、楽しかったです。

体験コーナー

すごくきれいな体育館でお兄さん達と遊べてとても楽しかったです。



青森大学新体操部員とくりん体操

高校生の作った加工品販売

皆さんが親切で、おもてなしの心を感じることができました。



あおもり教育フェスタ2016開催予定
皆さまのお越しをお待ちしております(*^_^*)

学校現場で活用できる研究成果をモットーに日々研究に励んでいます！

一年目研究員の研究紹介①

山田勇一研究員

(教育相談課 原籍校:おいらせ町立木ノ下中学校)



研究主題

中学生の自己肯定感を育むコーチングプログラムの開発

研究に向けて

子ども達の問題行動の背景には自己肯定感の低さがあるといわれています。自己肯定感を育む方法として、子どもの可能性を引き出すコーチングに着目しました。教師がコーチングを学び、実践することで、子ども達の自己肯定感が育まれるのではないかと思い、主題を設定しました。

研究内容

近年、様々な分野で活用されているコーチングスキルを学校教育に即した形で整理し、基本的なコーチングスキルとしてプログラム化します。そのプログラムを実践することで、子どもたちの自己肯定感を高めることができるのか、効果を検証します。

高橋和彦研究員

(産業教育課 原籍校:六ヶ所村立尾駈小学校)



研究主題

タブレット端末を活用した指導方法に関する研究
-小学校社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して-

研究に向けて

タブレット端末については、「ICTの活用などによる協働型・双方向型学習の推進」の中で、今後一層の効果的な活用が望まれています。そこで言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成するための手立てとして、タブレット端末を活用できないかと考えました。

研究内容

タブレット端末を効果的に活用することによって、児童の思考の可視化や共有化がしやすくなる可能性があります。そこで、「自分の考えをまとめる場面」や「児童同士が考えを伝え合い・深め合う場面」におけるタブレットの活用方法を探り「タブレット端末活用授業モデル」を作成したいと考えています。

工藤直子研究員

(教育相談課 原籍校:青森市立沖館中学校)



研究主題

中学生の自己肯定感を育むためのストレスマネジメント教育の在り方
—対処プログラムの作成と実践をとおして—

研究に向けて

人間関係のつまずきは大人でも大きなストレスとなります。中学生の段階から適切な自己表現の仕方や、困難を克服するスキルを習得し、自己をコントロールすることで、集団の中で他者との良好な人間関係の構築ができる生徒を育みたいと考え、研究を始めました。

研究内容

状況に応じて生徒が自ら考え、判断して行動できるように認知・情動・行動の観点で対処プログラムを作成します。

ストレスマネジメントのプログラムを検証して、先生方が学校現場で利用しやすい成果物に仕上げたいと思います。

倉内貞行研究員

(教育相談課 原籍校:鯉ヶ沢町立西海小学校)



研究主題

共同体感覚を高めるためのクラス会議の実践
- 日常生活で活用できる「クラス会議実践の手引き」の作成をとおして -

研究に向けて

学級において、すべての子ども達が生き生きと学び、活動できるようにしたいと願っています。そのためには子ども達同士が互いを信頼し合い、協力し合えるシステムの構築が必要となります。その手立てとして「クラス会議」を実践し、その有効性を確かめたいと思い、研究の主題を設定しました。

研究内容

クラス会議はアドラー心理学の考え方を基に構成されています。アドラー心理学の学校教育における有効性を文献や先行研究等で学ぶとともに、学校現場で無理なく、効果を引き出せるようなクラス会議のプログラムの検証を行い、手引きを作成します。先生方にご活用いただければと考えています。